

館ノ前たてのまえ（現 境野）

本村北部、館跡は現在宅地で其の南に位置しているので名付けられた。

境野村館

●奥州会津新鶴村誌抜粋

村の中央に河原田豊前の館があった。現在の道路の東側に当る辺であつたらしいが、跡は全く残っていない。会津古壘記によるとこの境野村館というのは東西三十六間、南北二十八間で天文元年（一五三二）小野大膳国房が築き、永祿の頃（一五五八―一五六九）河原田豊前が住み、天正の頃（一五七三―一五九一）には佐瀬平七の居となると見えるから、館とは云つても、あまり大きくない屋敷であつたらしい。

上江向うえむかい（現 境野）

江出川東側全体の地で、大正の耕地整理で出向と命名された。

天王前てんのうまえ（現 境野）

大正末期〜昭和三年の一反部耕地整理前迄、小高い丘であつて石の祠があり、牛頭天王様が祀つられてあつたので、この名が付けられたと云われている。

入坪いりつぼ（現 境野）

会津高田町との境で野地であつて三角形でこの所に堤を造つて、県道西の水田を満たしており、「うつぼ」の形であつたの

でこの名が付けられた。

後田あとだ（現 後田）

昭和五十八年圃場整備後も旧地名が残されているのはこの地のみである。

御館神社境内四畝二七歩昭和二三年熊野神社を合祠。



御館神社

供養壇くようだん（現 境野）

元熊野神社の北に壇の形のものがあり、何時の時代か定かでないが、大正末期まで四墓か五墓の供養塔があつた。昔処刑場であつたと云い伝えられている。今は形も崩され現在は熊野神社跡に小さい石の祠があつて四歩程の土地が残されている。

一里壇いちりだん（現 境野）

村の南、道路東側に一里壇と呼ぶ榎のある壇があつたと云われ、これが新鶴村旧役場前の一里塚跡より丁度一里で、次は永井野の一里塚につながる。

江戸時代の一里塚があつたので名付けられた。